① テーマ「将来へ伝えたい教訓」グループ

選定作品

「二本松市立岩代中学校3年 遠藤 美咲さん」の作品

選定理由

①「伝承」、②「今を大切に」、③「震災学習の学びを生かす」、④「当たり前のことは当たり前じゃない」の基準と、「被災者の方が手紙を読んでどのように思うか」を考慮した。遠藤美咲さんの作品は、グループとして大切にしたすべてのキーワードが込められていること、震災の経験を自分事として捉え書かれている作品であった点を評価した。

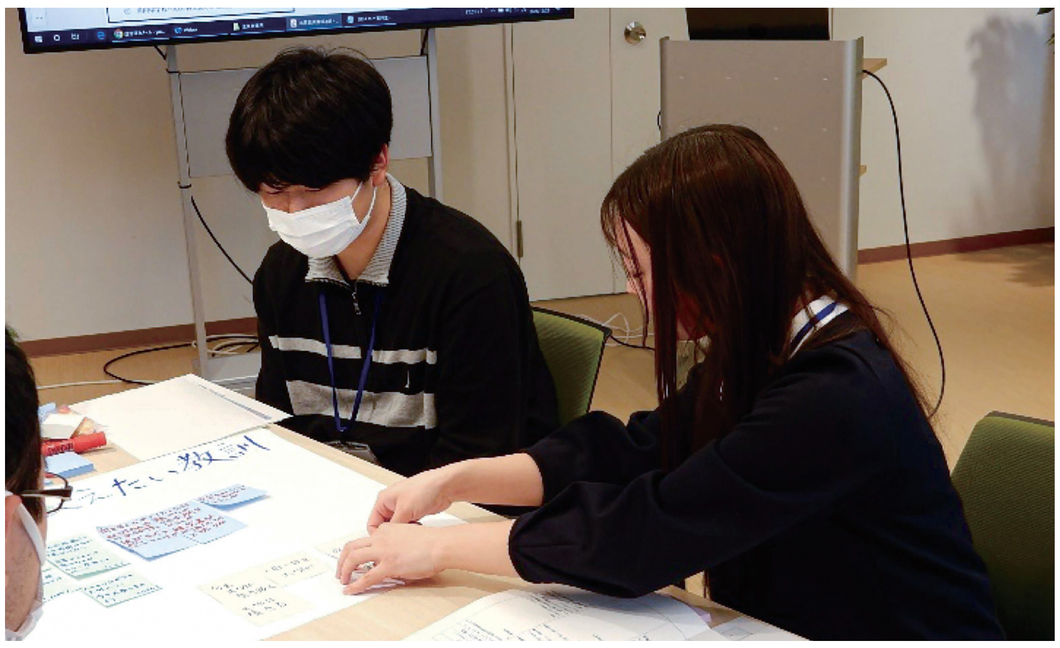
選定メンバーの声

私自身、浪江町で震災を経験した。選定会に参加する前までは被災体験を話すことが好きではなかったが、「未来への手紙」の選定に関わり、震災の経験を伝え伝承していくことが予期せぬ災害が発生した際に誰かの命を守ることに繋がるのではないかと感じた。（木幡　愛梨）

震災からまもなく14年が経ち、現在の中学生は震災発生当時、生まれて間もない、あるいはまだ生まれていない世代である。震災を経験した私たちの世代にできることは、震災の教訓を次世代に伝えていくことである。（角田　博之）

「未来への手紙」の選定にあたっては、自らが宮城県で被災をした視点、福島の被災者を知る視点など様々な角度から選定に取り組んだ。今回、震災を知らない中学生が書いた手紙を読み、震災を経験していないからこその視点を知ることができた。貴重な経験であった。（村岡　諒彦）

中学生の作品を読んで、心に響いたのは、「日常が当たり前ではない」「今を、一日一日を大切に生きよう」「日常がどれだけ幸せなのか考え直したい」という考えだ。当時の記憶がない世代の子たちが、震災学習を通して、震災がもたらした悲惨さを感じるだけでなく、今、この瞬間がかけがえのないものであること、何気ない日常がとても幸せなものだということに気づき、一日一日を大切に生きようと決心したことに強く心を動かされた。（佐藤　菜々香）



② テーマ「将来の自分へのメッセージ」グループ

選定作品

「白河市立白河第二中学校1年 吉田 壮佑さん」の作品

選定理由

真っすぐな思いと、その中でも自分ができることを頑張りたいという、吉田さん自身の思いで紡がれた言葉だと受け止めた。

作品全体を通じて、被災地と形容されがちな福島で生きる「３．１１当時の状況を知らない新しい世代」が３．１１を再解釈していく姿勢が見受けられた。そのような新しい姿勢を代表して表現するような吉田さんの言葉の紡ぎ方が印象的で、この作品を選定した。

選定メンバーの声

私自身、ライシーホワイトの活動を通して昨年度から県産米等のＰＲをする中で、震災以降、福島を応援してくれる方や、関心を持ってくださっている方との様々な出会いがあり、今後もそういった方々に、福島県に関心を持っていただけるよう、自分自身の思いを発信したい。（志岐　有彩）

震災を知らないことは決してマイナスではなく、（震災を知らない）福島県以外の方々と同じ目線に立てるという意味では、福島県と県外や国外の方々との橋渡しの存在となるのではないかと感じた。（平子　七海）

私自身、大学進学を機に福島県に移住し、現在、ミスピーチに所属しその活動を通してますます福島が大好きになり、福島でこれからも生活していきたいと思っている。今の中学生と同じく震災を経験していない身として、これから私自身も学び続ける姿勢を忘れず、これからも震災のことを伝えていけるようにしたい。（間船　はな）

資料館を見たり、話を聞いた事実を述べるだけでなく、それらの経験により感じた気持ちなど自分にしかかけない内容、そして未来につながる内容が書かれている作品を評価した。（佐藤　響）

③ テーマ「将来の福島県への願い」グループ

選定作品

「南相馬市立原町第一中学校３年 鈴木真日瑠さん」の作品

選定理由

選定理由としては、全体を通して明るい未来に向かっていくという強い思いが感じられたこと。鈴木さんの思いだけではなく、私たち選定委員が大切にしたい思いを鈴木さんの作品に乗せたいと考えた。

また、福島県のことを色で表しており、震災・原発事故で灰色に変わってしまったが、復興が進み少しずつ色を取り戻しているという表現が、祈念式典のときに読み上げられた際に、福島の情景を色でイメージしやすいのではないかという点でこの作品を選定した。

選定メンバーの声

私は郡山市で被災し、実家のある青森県に避難した。その時周りの方から「被曝しているのではないか」と学校でいじめられた経験をした。この文章の作品を読むことによって福島県のイメージが良い方向に変わるのではないかと思う。（工藤　凜）

「震災は自分にとって関係ないこと」と考えるのではなく、震災を経験していないからこそ、「もっと詳しく知っていこう、身近に感じて自分事として考えていこう」というように考えが変わっていけばいいと思う。（塩田　優莉）

今回の選定に当たって「進化」や「成長」を大事にした。ただ、震災前の姿に戻すのではなく、ますます成長してほしいという願いがあった。その思いがこの作品の表現と重なった。（菅野　萌久）

「未来への手紙」を書いたり、これから読んだり聞いたりするという経験が、福島の明るい未来や、若い世代の輝かしい未来のためのきっかけになったらいいと心から願っている。（大河原　那央）